

「生成A Iの利用に関するガイドライン」 (概要)

I はじめに (本ガイドラインの目的)

生成AIは、行政業務の様々な場面に活用できる可能性がある一方で、情報漏えいや他者の権利侵害などの危険性も指摘されている。こうした危険性を回避しながら持続可能な形で行政サービスを提供するため、行政業務において生成AIを利用するための指針として本ガイドラインを策定

II 生成A Iの活用方策

1 推奨する活用例

- アイデア創出
膨大な学習データ等に含まれる様々な情報に基づいた回答を参考にして、より多くの視座から検討することができる
- 文章の翻訳
高い精度での翻訳ができるほか、文章の趣旨は変えずに文章表現を変更させるなど一般的な翻訳ツールより効果的な使い方が簡易にできる
- Excelの関数やマクロのコード等の作成
Excel等で実行したい内容を指示し、回答として得られた関数やマクロのコード等を参考にして、専門知識がなくとも、より高度な情報処理ができる

2 その他の活用例

文章作成の補助等、文章の要約

3 生成AIを活用する上でのポイント

- ・ 正確かつ詳細な情報の入力
- ・ 回答の精度を高めるための手法
得られた回答の深掘りなど、生成AIとの対話を繰り返す

III 利用にあたっての条件等

1 生成AIの利用条件

- ・ 原則、生成AIの入出力内容を記録する機能を有するサービスを利用すること
- ・ 入力内容をAIの学習内容に反映させないよう設定すること

2 データを入力する際の禁止事項

個人情報や機密情報など直ちに公表を前提としていない情報の入力を禁止

3 生成された回答を利用する際の注意事項

- ・ 生成物の内容に誤りが含まれている可能性があるため、事実確認を行うこと
- ・ 生成AIは業務執行にあたっての単なる補助的なツールに過ぎないため、過度に依存することなく、業務における検討・判断の責任は人間である各職員にあることを理解して利用すること
- ・ 生成物が著作権等既存の権利を侵害する可能性があるため、生成物が既存著作物等に類似しないか調査すること
- ・ 生成AIを利用したサービスを利用する際は、生成AIのポリシー（利用規約等）上の制限に注意すること

(別紙) 有効なプロンプト (AIに対する指示) の例